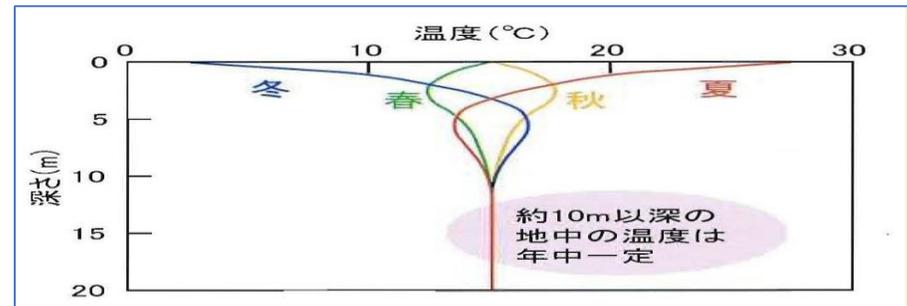


「秋田産業サポータークラブ、秋田の地球熱利用・地域振興WG」活動の紹介

【 内 容 】

1. 秋田産業サポータークラブとは
2. ワーキンググループ（WG）活動とは
3. 活動中のWG名・活動内容
4. 秋田の地球熱利用・地域振興WGの活動経緯
5. 第1回太陽とエネルギープラットフォーム研究会実施
6. 地中熱利用設備の低コスト化技術の各社開発事例
7. 埼玉県次世代住宅産業プロジェクト
8. 地中熱利用を推進するために



開催日： 2017年1月16日（月）
会 場： ルポールみずほ／秋田市

秋田産業サポータークラブ・秋田の地球熱利用・産業振興ワーキンググループ

日本ボンド磁性材料協会 会長
芳 賀 美 次

1. 秋田産業サポータークラブとは

引用： 1,2,3は「秋田県庁 産業労働部 HP」より

・ サポーターの入会・目的

首都圏において、産業界等の責任のある立場で活躍されている秋田県ゆかりの方々
のなかで、秋田を愛し、秋田の将来に深い関心をもち、秋田の発展に貢献したいと考
えている方々に入会いただき、秋田県の産業全般に関する御意見や情報をいただく等
今後の産業施策の推進に役立てていくことを目的としている。

・ どのような活動をしているか

総会 : 東京都内で年2回開催しており、講話や活動報告、県との意見交換
などを行っています。

WG : 各WGは主査のもとテーマを決め、自主的に研究会を実施している。

会長 : 藤盛 紀明 氏 (NPO 国際建設技術情報研究所)

クラブ員数 : **143 名** (2017. 1. 6現在)

2. ワーキンググループ(WG)活動とは

1. クラブ内には、自主的なボランティア活動であるワーキンググループが複数立ち上がっている。
2. 東京都内で会議を開催し、意見交換等を行っている。
3. 実際に秋田県内の現場を調査し、実態把握を行いながら、秋田の産業活性化に向けた具体的な支援活動等の実施をめざしている。
4. **現在立ち上がっているWG数** : **7 WG** (P-3 に示す)

3. 活動中のワーキンググループ(WG)／秋田産業サポータークラブ

WG名	活動内容
1. 企業振興育成WG	首都圏企業との受発注拡大や共同研究による新製品開発、新規産業育成等による県内企業、県内産業の振興を図っています。
2. 夢づくりWG	秋田の歴史、文化など豊かな資源を活かし、文化・教育・観光などを軸とした新しい事業分野の開拓や若い経営者などと連携し、若者が力を発揮できる環境作りを支援します。
3. 地域連携観光振興WG	県内に埋もれている歴史や歴史的建造物を掘り起こし、保存・再生を図るとともに、ビジネス活用により地域再生を図っています。
4. 北東北歴史懇話会	首都圏在住の方々に北東北の歴史を紹介し、北東北への観光誘客などを行っています。
5. 秋田の地球熱利用・地域振興WG	地熱や温泉水など国産の再生可能エネルギーである地球熱の有効な利用方法等について検討しています。
6. 秋田杉活用と地域活性化WG	環境性・安全性をテーマとした中層木造校舎への秋田杉の活用、秋田にある放置空家の再活用などを検討しています。
7. 食と美と健康WG	秋田ならではの資源である、食・温泉・自然・文化・伝統などをもとに、「美と健康」関連ビジネスの創出を検討しています。

4. 「秋田の地球熱利用・地域振興WG」の活動経緯

【WGの活動内容】

地熱や温泉水など国産の再生可能エネルギーである
地球熱の有効な利用方法等について検討する。

主 査： 田村八洲夫

WG員： 白滝一紀、菅原瑞穂、芳賀美次、
藤田和男、藤田豊久、佐々木詔雄、
志手一哉、佐伯英久

研究会： ① 4回／年 研究課題の検討、地球
熱利用事例の研究・提案、他

② 「第1回 太陽と地球のエネル
ギープラットフォーム研究会」開催

開催日： 2015. 12. 12(土)

会 場： 芝浦工業大学

【WG活動の経緯】

H22年： WG設立

H23年： NPOあきた地球熱利用事業ネットワーク設立

H25年： 県の補助金利用して地球熱利用のパン
フレット（技術紹介）を作成

H26年： 活動方針再確認。WGを4回／年開催
して、各自の提案を検討する。

H26年： 県の補助金でパンフレット（農業への
利用例掲載）作成

H27年： 県の補助金を利用し、外部団体との連
携シンポジウムを企画し開催
（「第1回太陽と地球のエネルギープ
ラットホーム」研究会）

H28年： すみだ中小企業センター「六次化支援
ネットワーク」との連携が進展

H29年： 「第2回太陽と地球のエネルギープ
ラットホーム研究会」開催

(2017年1月、16日)

5. 第1回 太陽とエネルギープラットフォーム研究会実施

- ・ 開催日時： 2015. 12. 12(土)
- ・ 開催場所： 芝浦工業大学芝浦キャンパス
- ・ 主催： 秋田サポータクラブ／秋田の地球熱利用・地域振興WG、芝浦工業大学
- ・ 共催： NPOあきた地球熱利用事業ネットワーク

- ・ **午前の部**： 芝浦工業大学公開講座
「再生可能エネルギーの最前線」

- ① 新法 省エネ基準の概要
秋元 孝之 芝浦工業大学・教授
- ② COP21における我が国の提言
藤田 和男 東京大学名誉教授
- ③ 地中熱利用の技術開発と普及戦略
笹田 政克 NPO 地中熱利用促進協会理事長

- ・ **午後の部**： 秋田の地球熱利用・地域振興WG

- ① スターリングエンジンと温泉利用
佐伯 英久(日本地熱シナジー(株))
- ② 低コストの地中熱設備の技術開発事例
芳賀 美次(日本ボンド磁性材料協会 会長)
- ③ 雪にも猛暑にも負けない井戸水を利用した通年水耕栽培システム
花田 征吉(NPO秋田地球熱利用事業ネットワーク副理事長)
- ④ すみだの再生可能エネルギーの活用実績と取り組み
土井 修典・金谷 直次(すみだ六次化支援工業会)
- ⑤ バイナリー発電の現状と課題
吉村 和就(グローバルウオータジャパン代表)
- ⑥ エネマネハウス2015の事例紹介
青島 啓太(芝浦工業大学特認教授)
- ⑦ エネルギーの再定義から始める地域再生
鈴木 秀顕(NPO秋田地球熱利用事業ネットワーク副理事長)
- ⑧ 仙北地域における水力発電の挑戦
長瀬 一男((株)わらび座)
- ⑨ 地域都市づくりとスマートコミュニティ構想
白滝 一紀(秋田大学客員教授)

6. 地中熱利用設備の低コスト化技術の各社開発事例

補助制度が適用されるようになって(2014年) 各社一斉に研究開発を開始

- 1) 埼玉県／次世代住宅産業プロジェクト(産官学/2014～2016)
- 2) 積水化学工業(株)の施工コスト削減技術
- 3) (株)コロナの工事費削減技術
- 4) (株)大林組の採熱効率、施工コスト削減技術
- 5) 大和ハウス工業(株)の給湯システム技術
- 6) 三菱マテリアルテクノ(株)の熱交換用管の埋め込み工法
- 7) 三井化学産資(株)の熱交換用管の施工技術
- 8) 秋田市新庁舎／地中熱利用設備導入例

7. 埼玉県次世代住宅産業プロジェクト／3年間の研究開発の成果を発表

【次世代住宅産業プロジェクト】

本プロジェクトでは平成26年度から3年間各企業・大学が連携し4つの研究開発テーマに取り組んできた。3年間の成果発表会。

- ① 「地中熱ヒートポンプシステムの開発」
- ② 「遮熱・断熱ガラスフィルムと超親水性防汚コーティング剤の開発」
- ③ 「湿式・乾式製造法による木質系断熱材の開発」
- ④ 「住宅の一次エネルギー削減評価プログラムを開発するエネルギー・マネジメント・ソリューション(EMS)の開発」

■ 省エネ住宅等の普及促進に向けた、平成29年度 国の支援施策の紹介

(国土交通省 住宅局 住宅生産課 建築環境企画室)

1. 報告会開催日程 : 平成29年2月7日(火曜日)
13時30分～17時10分
2. 会場 : 新都心ビジネス交流プラザ 4階会議室

【問い合わせ先】

公益財団法人埼玉県産業振興公社 新産業振興部先端産業振興グループ

さいたま市中央区上落合2-3-2新都心ビジネス交流プラザ3階
電話:048-711-6870

【申し込み先FAX】048-857-3921

【申し込み先メールアドレス】sentan@saitama-j.or.jp

『引用 : 埼玉県先端産業創造プロジェクト』より

8. 地中熱利用を推進するために／オールジャパンで

1) 認知度を高める

- ① 有名建築物・公共施設など率先採用・PR
- ② 省エネ効果の確固たる知見を整理
- ③ セミナー、公開講座などで普及啓蒙活動

2) 初期コストを下げる研究開発を継続

- ① 設備改善目標 ⇒ 使用電力の3.5倍以上
- ② 熱交換器チューブ埋設コスト大幅削減
 - ・ 工法の改善
 - ・ 高熱伝導性パイプで長さ短縮
- ③ ヒートポンプの大量生産で空気熱交換器並に
- ④ 維持コスト低減 ⇒ メンテナンスフリーに

3) トータルシステムの力を強化

- ① 設計・施工・ノウハウを蓄積・共有する
- ② 関連業者が連携し、実践力を高める
- ③ システムの評価基準を明確化する
 - ・ 効果の測定、評価方法の確立で透明性
- ④ 故障・メンテナンスの信頼性を高める

4) 補助制度の有効活用

- ① 補助制度のPR
- ② 効果の高い地域・建築物への集中補助

ご清聴ありがとうございました